

平成30年度 第3回

## 帯広市廃棄物減量等推進審議会 議事録 (概要)

日時 平成30年11月21日(水)  
午後4時～

会場 帯広市役所水道棟3階 大会議室

### 出席委員(13名)

青田 委員  
岡田 委員  
上谷 委員  
木川 委員  
齊藤 委員  
高田 委員  
中川 委員  
沼尾 委員  
栢川 委員  
前川 委員  
水上 委員  
柚原 委員  
渡邊 委員

(18名中13名出席)

### 帯広市(8名)

川端 市民環境部長  
岸浪 清掃事業課長  
一森 指導担当課長  
櫻田 課長補佐  
前野 ごみ減量係長  
西本 ごみ減量係主査  
中村 ごみ減量係主任補  
土田 ごみ減量係主任補

- ・川端市民環境部長挨拶
  - ・渡邊会長挨拶
- その後議事に入る

議事（渡邊会長により進行）

1. 帯広市一般廃棄物処理基本計画について  
事務局（前野ごみ減量係長）説明

会 長） はい。ありがとうございました。ただ今、この第三期帯広市環境基本計画策定及び第四次帯広市一般廃棄物処理基本計画にかかわるアンケート調査の結果についてご説明をいただきましたけれども、この今説明いただいた内容について何かご質問ですとかご意見ありましたらご発言ください。いかがでしょうか。

何かもうちょっと詳しく聞きたいですとか、そういったところがあればご指摘いただけたらと思います。いかがでしょうか。何かございませんか。

じゃあまず私ちょっと聞きたいんですけど、アンケート調査の結果見せていただくといくつかのところが高齢者というか割と年齢の高い方々の意識が重要度高くて、また20代の人も高くて、30代40代でちょっとへこんでるところが何か所かあるんですよ。こういうのって、これまでもこういうアンケートってやったことがあるんでしょうか。そこでも同じような傾向ってずっとあるんですかね。3、40代いわゆる現役世代でちょっと廃棄物への興味が低いとか。

事務局） アンケートはですね、今の計画、第三次帯広市一般廃棄物処理基本計画を策定する時ですから21年頃に今回と同じように環境と一緒にアンケートをとった経過があります。その時はあまり年代別というのがなかったの。だいたい項目は今回と同じになります。今回年代別でアンケートをとりましたので、今会長おっしゃられたように年代ごとに傾向が違うということがよくわかりましたので今後、施策等、基本計画の策定の時に参考にさせていただきたいと思います。

会 長） はい。ありがとうございます。せっかく年代別に調べてこういうずいぶん大きな差があるところは結構あったように思うので、どうして3、40代で興味だとか重要度の認識が低くなるのかというこ

とも理由も含めて対応していかないといけないかなというふうに感じました。

その他いかがですか。今のような結果についてのことでも結構ですし、また、皆さん考えておられることなんかで今のアンケート結果に加えてこういうことも今後の基本計画の策定に反映させてほしいようなことがあれば自由に発言いただけたらと思うんですが何かございませんか。どうぞ。

委員) 今、21年頃にアンケートを行われたというお話をされていたと思うんですけども、その時のアンケートの標本数など分かれば聞きたいなと思うんですけど。

事務局) 今わからないので後日お答えしたいと思います。当然比較しなければいけないとっていて、それも含めて来年以降検討していきたいと思います。

会長) はい。ありがとうございます。さすが大学生くらいになるとアンケート調査のサンプル数も気になりますよね。でも、きちんとその制度に関する情報なども書いてあるところなんかもちんとした調査だなという印象を私も受けました。

その他いかがですか。その細かいところでも構いません。

副会長) マイバックについて、10年程前かな、マイバックにしようという運動がすごく盛んだった。最近こういう言葉が全くないんですね。それで私も町内会便りの中身を見た時にこれの特集であげたんですよ。皆袋を持って買い物に行こうと。ところがアンケートの実態を見ると、かなりの意識は持っているけど、店に行くと結構袋を貰って買い物をしている姿が帯広は多いかなという感じがするんだよね。ある店はお金をとるところはしっかりと袋を持って行くけども、そうでない店はいっぱい袋を貰って帰っていく姿がある。だからこのマイバックについてはあまりにも差があるので10年ぶりで町内会便りを引っ張り出してみたんですね。あの時は随分審議会でも熱心に討議しましたし、市民の中でも運動があったように思ったけど最近全くこの声が聞こえなくなりましたね。だけど、もう一押ししなければならぬのかなとこのアンケートを見た時に感じたんですよね。感想です。

会長) はい。ありがとうございました。どうでしょうね、このへんにつ

いては。

事務局) はい。マイバックについては毎年ですね、辞退率というのをとってですね、断っている割合ですね。毎年、辞退率というのをご報告いただいて、それを見ながらということになっています。また、それだけではなくてですね、周知の方もなかなか皆さんに伝わりにくいというのがありますので時を見てレジ袋関係も周知していきたいなと思っておりますのでよろしくをお願いします。

会長) はい。ありがとうございます。うちはもうすっかりマイバックになっちゃって。あとは行って、店頭でダンボール箱くれるでしょう。ダンボール箱で買ってくる人が多いんで全然最近レジ袋を貰わないんで分からないんですけれど、今、レジ袋の有料ってどのくらいのところでやってるんですかね。

委員) 結構スーパーはほとんど。

副会長) 全部ではないけどね。8割方、お金を取られるところはね、皆袋を持って行きます。お金を出さなきゃならないところはね。袋いりますか、何円ていうところがある。そういう店はしっかりと皆かまえて、何も無いところはやはりそれなりに利用がありますね。そうすると運動とはちょっと違う部分が出るからいかなものかなという感じがしたものですからね。

会長) 先程、川端部長さんのお話の中にもありましたけれども、これからレジ袋の有料化が義務付けられたりすればまた少し変わってくるんでしょうね。

副会長) 今も有料ですよ。

会長) 全部のお店がそうなればね。

副会長) 全部ではありませんね。いろいろなところがあります。

会長) 市民の意識も大事ですし、意識だけではなかなか動かないところもありますからやっぱり有料化とかそういうかたちでのちょっと一押しするのも必要なのかなと思いました。

その他いかがでしょうか。この今の件について。はい、どうぞ。

- 委員) ほぼ皆さん事前にバックを持ち歩いているというのは大分進んでいると思うんですよね。急に買う場合は別として、ほとんどバッグをしのばせているのがどんどん広まっていると思うんですけれども。
- 会長) ありがとうございます。なかなか人のことってあんまり気にしないですよ。自分がしているのは分かるけど、他の人どうしてるのかなってそんなに気にして見ることはないから。どうなんでしょうね。はい、どうぞ。
- 委員) 私はマイバックをバックに2つぐらい入れて歩いてるのでほとんど貰わないんですけど、私の知り合いの友達は、普段はマイバックを持ってるんだけど、ごみ出しするのにやっぱりレジ袋って必要なんだよねっていう方がいて、何回かに1回ぐらいはレジ袋が必要で貰おうっていう。ただそれは無料のところでは貰ってるって話は聞いたことがあります。
- 会長) Sの日に出す時に必要だからうちはわざわざ買ってますけど。透明の袋を。そうかそうか。それ買うのもったいなかったらやっぱりレジ袋少しあった方がいいですね。
- 委員) やっぱり赤い袋青い袋ありますけど、漏れたりすると嫌なので、二重にして、特に生ごみとかは。やっぱり必要な場合もあるんだなと思います。なのでレジ袋が有料でもいいのかなと思うんですけど無くなったら困るので。環境のことを考えるとやっぱりその辺に捨てないというね。ごみを散らかさないとか、ちゃんとごみ箱に捨てるという習慣が大事なのかなって思います。海に行ってレジ袋で買い物して、そのままその辺にポイと捨てるという、そういうことはしないというモラルが大事なのかなと思います。
- 会長) レジ袋無くしちゃうというのではなくてレジ袋を使った後の処理の仕方なんかをもう少しきちんとしてほしいということですね。
- 委員) 徹底的にというか、やっぱり国全体で子供達にも小さい時からそういうふうにしてあげないってことをきちっと学習するっていうか。それが大事かなと思ったりするんですけど。
- 会長) はい。どうもありがとうございました。

はい、どうぞ。

委員) 私もマイバックを持っているんですが、隠しながらも買い物をしてるんです、マイバックを。景品で貰ってるんですが、非常に小さなマイバックで買い物をした後にそれに入れてあふれてしまう時があるんですね。周りの主婦の方を見るとちゃんとカゴにマイバックがきちんと入るようなマイバックを持ってカゴいっぱい買うとそれに入るような感じのマイバックが主婦の方はきちんと計算しながら買っているのを見ているんです。私のはちょっと小さいのかなと思っているんですけど、今までは買い物してレジ袋がタダの時はもう1枚くださいと言って貰った時代があったんですが、今はまた並ばなきゃなんないんですよ。お金を出して買わないとなんないんでね。だからマイバックを持ってあふれてしまうと会長さんが言った、箱にまた詰め替えて持ち帰るっていうのがよくあるという買い物の仕方ですね。

会長) でも、だんだん慣れてはきますよね。うちもカゴにちょうどはまる大きさのバック持ってそれをはめて会計してもらってそのまま持って帰るってね。ああいうのがいっぱい売ってるんだから、徐々に普及はしているんだろうけど、でもやっぱり急に買い物に行くことってありますもんね。あとコンビニですかね。スーパーとか行く時はバック持って行くけどコンビニは袋入れてもらっちゃいますもんね。どうしてもね。もうちょっとコンビニに行く時に皆がマイバックを持って行くような感じになったり、あるいは袋いらなくて買ってこれるようになったらいいですよ。コンビニでレジ袋有料ってないですよ。ありますか。

委員) ないですよ。管内は。

副会長) コンビニはない。コンビニは全部袋に入れてくれるよね。

会長) やっぱり車で来て買う時に袋がないとやっぱりなかなか難しいですよ。

委員) 温かい物と冷たい物も分けますし。

会長) 私いつもああいうのもったいないから一緒にしてくれって言うんですけど。でもね、そうじゃないと嫌がるお客さんもいるんですよ。

うね。飲み物とつまみだったりするとね。さっきのあのレジ袋の有料化義務化っていうのはあれですかね。コンビニも含まれるんでしょうかね。

事務局) ニュースによるとセブンイレブンが検討してるというのはこの間見たような気はいたします。

副会長) コンビニがやらない限りは大変だね。コンビニが半端でないですね。あの量、袋が小さいけどね、小さいけどすごい量はあります。

会長) 種類いっぱいあるんですね、袋もね。

副会長) 運動としては両方一緒にやらないとこの運動にはならないのかもしれない。

会長) その分ただあれですね。コンビニのレジ係の人の仕事はひと手間増えるわけですよ。相当忙しいですよ、セイコーマートとかの一人でやってるところのアルバイトぐらいの一人でやってるのとか。ただでも忙しいのにもうひと手間レジ袋いりますか、レジ袋いくらですとなるとやっぱりそのコンビニの方の販売の手続きの改善みたいのと一緒にやらないとただ現場に負担がかかるだけになるかもしれないですね。今のこのマイバックの関係のことでその他何かご意見ございますか。よろしいですか。

なければその他のところで今のアンケート結果のついて別のところで何かございませんか。はいどうぞ。

委員) アンケートの感想なんですけど、45ページのごみの分別の実践度と重要度って有料化していることもあると思うんですけども、91%以上の方がごみの分別はしっかりしているよと。で、Sの日と集団回収。資源化の方、それはお金がかからないんですけども、43ページのSの日と41ページの資源集団回収の方は7割ぐらいの方しかまだ意識、実践度がないということなんで、分別から比べると2割ぐらい、まだ資源回収とSの日で減らせるというか資源として回収できる余地があるのかなという印象を持ちました。

それとちょっと資料3の方でもよろしいですか。最後に説明いただいた資料3の2、A3の長い資料ですね。そのところで最後にご説明いただいたところをちょっと確認したんですけども、国の方の2025年度の目標値が440gということで、それ

は先ほど私が聞き逃したかもしれませんが、でも集団回収量を除くという。で、それを29年度の実績で計算すると439g。で、国の目標は今の時点で達成している帯広市ということで理解してよろしいのでしょうか。

会 長) ありがとうございます。いかがでしょうか。

事務局) 補足させてください。北海道の一人一日当たりのごみの排出量。帯広市の計画に載っておりますが、これについては事業系のごみ、それから資源など全部入っています。その全部入っているごみの総量を人口で割って365日で割ってこうなったということでございます。ただこちらの家庭系の方はですね、今申し上げた通り資源ごみ、家庭から出た燃やすごみ、燃やさないごみそれだけですね。資源ごみと集団資源回収とSの日、資源の日に出す計画収集、これを抜いたごみになりますので、数値的には赤い袋と青い袋、それだけの量が一人一日当たりのごみの排出量になると。あと大型ごみも入りますね。資源以外のごみをどれくらい出しているかという数値なので。この数値が下がることによってごみの減量また資源化も進んでいるというふうにいえるということで。これに事業系が入りますと景気に左右されたりいろんな関係がありますけども、普通に家庭ごみだと市民の結果が少し反映できるようになると思ってまして、これを次年度の計画の目標値にしていこうかなという考えを持っておりますので、またその際にはご意見をいただきたいと思えます。

会 長) はい。ありがとうございました。前半の方でいただいたご意見ですね。ごみの分別については実践度も重要度も高く評価されているけどSの日とか資源集団回収については少し下がる。そこのところにまだもう少し頑張る余地があるのではないかというご指摘でしたね。今までもずっと前から見てきたリサイクルについてはもう少し向上させなきゃいけなかったかと思えますのでそういう点でもこの集団回収とかSの日のごみ出しについてももう少し市民の理解を得るといふところあたりに大切なところがあるような感じですね。そういったようなご指摘だったと思えます。どうもありがとうございました。

その他このアンケート調査の結果等について何かお気づきのところとかございませんか。よろしいでしょうか。どうぞ。

委員) 24ページなんですがごみの適正排出の啓発、指導について、20代のとても満足が著しく低いじゃないですか。こういうのって多分、啓発の方法とかアピールの仕方って届いていないのかなっていうのもあると思うんですけど、SNSとかの配信とかってありますか。帯広市のごみに対しての。やっていらっしゃいますかという。

会長) 今の質問の趣旨としては、この20代っていうのはSNS等での情報がメインになるから、そういうところでやっているのかどうかというところですね。

事務局) 帯広市のホームページにも情報を載せておりますが、たまにですね、エコエコ紙芝居がありましたよとかそういった情報を流しています。今ご意見ありましたように、そういう傾向が出てるとということも踏まえまして今後につきましても情報を流していきたいと思っています。

会長) はい。ありがとうございます。私もアンケートって割と専門の方なんですけど、満足しているっていうのはどういうことなのかって気になりますね。どうだと満足って答えるのか。その辺が年代が上の方々と20代で満足って言っているものの基準も違うような気がするけど、いずれにしても20代の人達は重要度の点では結構高く評価しているんですよね。この問題はね。ただそれが実際の満足に繋がらないってことはその実践に繋がる部分での情報とか使えるリソースが少ないのかもしれないからそのところをもう少し埋めていくと20代の満足度が上がるんじゃないかというのは確かにありますね。どうもありがとうございます。

その他いかがですか。よろしいですか。

そうしましたらひとまずこのアンケートについてはここまでにして、次の議題の2に進ませてもらいたいと思います。議題の2は帯広市災害廃棄物処理計画の原案です。これについて事務局よりご説明いただきたいと思います。お願いします。

#### 帯広市災害廃棄物処理計画（原案）について

事務局（櫻田課長補佐）説明

会長) はい。ありがとうございます。今、帯広市災害廃棄物処理計画原案の概要についてということでご説明いただきました。こうやって具体的に聞いてみるとなかなか大変なことだなということが分

かってくるんですけども、今説明いただいた内容について何か細かいところの確認ですとかご質問とかございましたら発言ください。いかがですか。どうぞ。

委員) 仮置き場ってあるんですけど、今も実際に仮置き場の候補になっている場所とかっていうのはあるんですか。

事務局) 今ですね。実際ですね、いろいろな状況を見てリストアップしている最中です。この計画を策定していく中でですね、市内にこういった場所を設けて市として選定はしております。

委員) はい。ありがとうございます。

会長) よろしいですか。  
先程も説明ありましたが、いきなり地震が起きてからここに置きますって訳にはいかないですから、前もってある程度の場所の見通しは立てているっていうことですね。

事務局) もうちょっと補足ですけども大体ですね、仮置き場というのは5千平米から1万平米ぐらい必要だと言われています。というのはですね、ごみを置いてそこで重機の作業というのがありますのでそういったスペースにはどうしても0.5ヘクタールから1ヘクタール程度必要ですので、それに見合った候補地を今リスト化しているところです。

会長) これ一箇所にとめてってことではなくて、やはり市内に何箇所かということですかね。

事務局) できるだけ分散させて設置をして一箇所にかたまらないようにということと、お住まいの場所にできるだけ近いところでということ。すべての条件を満たすことはなかなか難しいのかもしれませんが、もし災害が起きればすぐに用意できるようになっています。

会長) この間の水害なんかテレビのニュースで見てたらかなり大きな物も市民が自分で運び込んでますよね。イメージとしては自分で持つて行くイメージですか。

事務局) 原則はそうなんですけども、トラックをお持ちのお家ってほとん

どないですよ。例えばご近所で持ってて、ご近所同士でお互い協力しながらっていうのもあるんでしょうけども、どうしても大きな災害が起きた時ですね、そこまで手が回らないっていう場合はですね、当然、近くのところにおいてもらってということも場合によってはですね、高齢者の方ですとか身体が不自由な方がそこまで出来るのかということもありますので、あと災害時の混乱っていうのもありますので、そこはやっぱり柔軟に考えることが当然発生してくることは想定しております。

会 長) ありがとうございます。町内会の役割が出てきますね。そうなる  
とね。

委 員) ちょっとそれに関連してなんですけど、今年の厚真のごみの片付け。ボランティアで車を出す人とかお手伝いの方を募集して私の知り合いが行ったんですけど、片付けといってもその災害で出たごみじゃない、例えば植木鉢だとか焼肉台だとか本当に家の片付けという感じのボランティアだったっていうことで、ごみがかなり、災害ごみじゃないごみがかなり出たってことを言っていましたね。

事 務 局) その点なんですけども、今おっしゃったですね、いわゆる便乗ごみですね。災害のごみじゃなくて普段から眠ってた物を仮置き場に出しているっていうのがかなりあったっていう話がありまして、できるだけそれは少なくしないと、それがその復興の速度にもかかわりますので、出来ればですね、例えば何十年前に使ったブラウン管テレビとかをその時出されても困りますので、できるだけそれは事前に周知なりして、もし災害が万が一起きたらそういったことがないようにということで、なおかつそういったものは運べないですよということをですね、例えば私どものごみコミュニティメールってありますよね。そういったものを利用しながらご協力いただけるように努めたいとは思いますが、ただ厚真の時のようにですね、相当大きな地震の時はどうしても若干発生する可能性があるというか。水害は流れ出たらもう誰のごみかわからないので、その時はもうやむを得ないのでそのまま処理することもあると思います。ただ、便乗ごみについては出来るだけ仮置き場に持ち込んできた方にお話しするしかないと思いますね。

会 長) はい。ありがとうございます。これ難しいですよ。水害だったら物置にいっぱい入れてたのも水がきちゃえば全部水害のごみで

すよね。どこまで良くてどこまで悪いのかってやっぱりかなり良識に期待するしかない範囲の話になりますよね。

事務局) 地震で壊れたらそれはもう災害廃棄物なんですけれども。出来るだけ普段から使わない物を随時、例えば廃家電であれば家電リサイクルにまわしてもらいますとか、啓発をしていくことが必要になってくると思います。

会長) 日頃から溜め込まないようにということですね。ありがとうございました。  
その他いかがですか。

委員) 災害の時ですね、帯広市のを今伺ったんですけども災害というのは帯広市だけじゃないですよ。管内全部というか広範囲になりますよね。その中でくりりんセンターの廃棄物の処理っていうのは帯広市の分を考えてのこの数字ですよ。管内全部考えてってことなんでしょうか。

事務局) まずですね、先ほどの2万4千トンというのは普段の帯広市の搬入割合を按分して出してるんですよ。ですからもうちょっと詳しく話しますとですね、2.7年というのは処理期間を3年間とした時に実際に仮置き場に持って行ってそれからこの施設に来るのが2.7年くらいだろうということで2.7年にしているんですけども。その前にくりりんセンターの最大の余力を考えたら年間で4万トン搬入できるんです。そのうち普段の帯広市の搬入だったら大体6割ぐらいなので0.6かけて2万4千トンということで。残りが普段の搬入割合でいうと他の構成町村のごみであると推計をしております。

実際に今おっしゃったように十勝平野断層帯の地震というのが襲ってきて、実際これだけの量の帯広市の廃棄物が出るとすると、近隣の町村が被害がありませんでしたということはまずあり得ないことですね。他の町村も大きな被害になりますので。そうするとくりりんセンターだけでは、もし、くりりんセンターが被災していなかったとしてもですね搬入できないということで。そういった場合については、今回の北海道胆振東部地震の時も地元で処理できなくて他の自治体に依頼したということなんですけども、それをするのが現実的だということですね。逆にそれしかないのかなと思います。

会長) はい。ありがとうございました。一応計算上は他の町村の処理というのも含めた上でこういう結果ですね。ありがとうございました。その他いかがですか。

委員) 今の話でくりりんセンターが被災した場合、当然管外に協力をお願いするということだと思っんですけどそういうのも含めてこの計画に盛り込むということなんでしょうか。

会長) 処理施設自体が被災した場合の対策ってどうなっているのかってことですよ。

委員) 計画の中にそういったことも記載されるのかなと。

事務局) まず処理施設が被災した場合に、くりりんセンターとしても出来る限り復旧するように努力はすると思っんですけども、災害廃棄物がたくさん出て、どちらにしてもなかなか処理ができないという場合にですね、本編の中に他の自治体の処理施設を使わせてもらっているのを記載しております。

実際ですね、災害廃棄物処理計画というのはまだ策定割合は低いんですね。北海道でも1割に満たないくらいの状況の中でなかなか自治体として事前に災害が起きた時にお互いこうしましょうねという土壌というのがまだ整っていないということで、現実的には北海道の方に支援をすぐに要請をすると。そういった判断をしてどこか他の自治体に受入れをしてもらうかどうかというのを探すということが計画の中には記載されているので。

災害がもしものすごく大きくなった場合には帯広市自体が被災してとても出来ないという場合も可能性としては考えられる。そういった場合には地方自治法の規定に基づいて事務の委託というものがあまして、都道府県に事務を委託して都道府県が実質的には処理を担うということがあります。それが可能性としてはそういったこともあり得ると。そうすると北海道が主体になって処理するということも考えられます。本編ではそういったことも記載しております。

会長) 災害そのものの規模がどのくらいで被害がどのくらいかによってずいぶん変わる話なんですね。だから災害が起きてからの計画になるのかなというふうに聞いてましたけど。東日本大震災なんかどうだったんですかね。相当処理施設も被害を受けたんですかね。

事務局) そうですね。被害を受けて仙台市なんかは仮置き場の中に仮設焼却炉を設けてそこでも処理したという話は聞いています。ただ、仮設焼却炉もかなり大きな施設ですので建設するとなると数ヶ月の期間を要しますので、かなり大きなプラントですので。ですから他の自治体に処理をお願いするとかそういったことも考えながらどれが一番最善なのかというのを専門家の方にもご相談しながら進んでいくというかたちになると思います。

会長) はい。ありがとうございました。

委員) 一点ちょっと気になったことがあって余計な心配かもしれないんですけど、仮置き場がどこか指定されたとすると、かなりの行列というか車列ができるような気がします。年末のくりりに搬入する時に長い行列ができるイメージがあったので。本編の原案の43ページに仮置き場の配置案というのが出ています。一方通行で流した方がいいんじゃないかなって感じがしまして。あくまでこれは案だからあれなんですけれども、真ん中をぐるっと車が回るイメージなんですけれども、外側を周って一方通行で流すようにした方が流れがスムーズかなって感じがこの絵を見た時にちょっとしまして。こういうふうに外側を回って真ん中にごみを積んで一方通行で流すようなイメージはどうかなってというのはちょっと思いました。

事務局) ありがとうございます。ここにある図ですが、あくまでも一般的にこんなふうに分別したらいいのかなという図です。当然入口も真ん中じゃないかもしれないし様々ありますので今いただいたご意見も参考にさせていただきながらいざ被災があった時にうまくいくようにしたいなと思います。

会長) ありがとうございます。その時になってみないと道がどうなっているか分からないですからね。そういうことも含めて今後に向けて検討いただいてうまくやっていただけたらなと思います。その他いかがですか。この災害廃棄物の処理計画について。よろしいでしょうか。

そうしましたら2つ目の議題についてもご意見をいただきました。事務局から今日説明をいただく議題はこの2つで終わりですけれども何か今日説明があったことと関係してでもいいですし、関係ないことも含めて何か今後の清掃行政、ごみ減量、リサイクルの関

係なんかでご意見等ありましたら伺いたいと思います。特にこの前の地震と停電の時に何かごみのことの関係でお気づきのこととかがあれば伝えて役に立つかなと思うんですが何かございましたでしょうか。特になかったですか。順調でしたもんね。ちゃんと収集してくれたので。その他今日の関連のことでも関連無いことでもありましたらご発言ください。いかがでしょうか。ございませんか。副会長何かありませんか。

副会長) はい。ありません。

会長) そうしましたら今日もいろいろ活発なご意見をいただきましたので、今日のご意見ですとか提言を踏まえて事務局には取り組みを進めていただきたいと思います。最後になりますが事務局から何かあればお願い致します。

事務局) 私の方から一つご報告させていただきます。

本日の審議会の報酬についてでございますけれども、12月5日にご指定いただいております口座に振り込みを予定してございます。よろしく願いいたします。以上でございます。

会長) はい。ありがとうございます。それではこれで今日の審議회를終了いたします。今日は誠にありがとうございました。